

JEEF 30周年記念シンポジウムを 開催しました！

多様な視点から語る 生物多様性

シンポジウムは、JEEFのこれまでを振り返りつつ、現在地球が直面している危機の1つである「生物多様性」をテーマにこれからの環境教育を考える機会となりました。

プログラムの前半では、JEEF会長の岡島成行による記念講演「JEEFのこれまでとこれから」と、武内和彦氏（公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）理事長／東京大学未来ビジョン研究センター特任教授）による基調講演「新しい生物多様性枠組と2030年ネイチャーポジティブ実現への道筋」が行われました。岡島氏からは、これまでの30年間、JEEFがどのような道を進んできたのか、ま

JEEFの設立30周年を記念し、2023年6月25日に「生物多様性保全（ネイチャーポジティブ）の達成を目指したこれからの環境教育の展開」と題したシンポジウムを立教大学にて開催しました。総勢100名以上が一堂に会する機会となり、コロナ禍以降、久しぶりの対面での大規模なシンポジウムとなりました。

た今後どのような道を進んでいけば良いのかについて、当事者だからこそわかる視点での非常に興味深い話が展開され、30年前から繋いできたバトンが確実に現在に繋がってきていると感じました。また、武内氏からは、2022年12月にカナダで開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された世界共通の新たな目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の概要と環境教育との関係や、生物多様性をはじめとする地球環境の危機的な現状について解説がありました。グローバルな視点も持ち合わせた課題解決が必要な現代において、とても重要で有益な講演でした。

後半では、『「生物多様性×環境教育」をすすめていくために』というテーマで多様なステークホルダーによるパネル

ディスカッションを実施しました。行政・自然学校・企業・ユースそれぞれの視点からネイチャーポジティブの実現と、どのように環境教育が貢献していくのかという視点で熱い議論が展開され、示唆に富む時間であったと感じています。

「生物多様性 × 環境教育を進めていくために」 パネルディスカッション

モデレーター

- ・ 阿部 治
JEEF 理事長

パネリスト

- ・ 奥田 直久氏
環境省自然環境局局長
- ・ 奇二 正彦氏
立教大学スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科准教授／ESD 研究所員
- ・ 藤田 香氏
東北大学グリーン未来創造機構／
大学院生命科学研究所教授
- ・ 矢動丸 琴子氏
一般社団法人 Change Our Next Decade 代表理事



<参照資料>



世界経済フォーラム (2022) The Global Risks Report 2022

<https://www.weforum.org/reports/global-risks-report-2022/>



環境省 (2021) 生物多様性及び生態系サービスの総合評価 2021

(BO 3: Japan Biodiversity Outlook 3)

<https://www.env.go.jp/press/files/jp/115844.pdf>

2030ネイチャーポジティブを目指して

本シンポジウムは、「生物多様性」をテーマにこれからの環境教育について考える機会となりました。「生物多様性」は私たちが生きるための基盤であり、健全でバランスの取れた生物多様性は、安全で豊かな暮らしをするために不可欠です。しかし、生物多様性の劣化・損失は今も止まっておらず、世界経済フォーラムのレポートによると、今後10年間の地球規模のリスクとして生物多様性が3番目に位置付けられています。また、環境省の報告書によると、日本における生物多様性・生態系サービスは過去50年間劣化傾向にあるとされています。つまり、あらゆるセクターが本腰を入れて取り組まなければ手遅れになってしまふのが現状です。

この現状を変化させていくために、個人の行動変容が1つの鍵となります。ただその際には、危機感を押し付けるだけでなく、相手に合わせたアプローチ

で、自発的に行動ができる人を育成していく必要があります。そのため、私は環境教育が生物多様性の回復・保全に貢献できる役割は非常に大きいと考えています。また、生物多様性は、あらゆる社会課題と密接に関わっているため、様々な他課題との同時解決や分野間の連携を深めていくことも重要です。今回のシンポジウムを機に、分野間・主体間での新たなシナジーが生まれることを期待しています。

文：矢動丸琴子（JEEF）

